
機械刑事

蒼川 悠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機械刑事

【Nコード】

N5765R

【作者名】

蒼川 悠

【あらすじ】

交通事故により機械体になった少年清優、普通に学校に通いながら研究所でアルバイトという形で身体を改良検査を提供している。そしてある日、今度は自分の意思で家出する

P r o l o g u e (前書き)

機械体の少年が特殊犯罪機械課の刑事になるまでの話です。

Prologue

カチャカチャ、特殊な台に上半身裸で機械を繋げられ手足首は拘束して少年が寝かされて改良・改造・治療を施されていた。

「うああーっ」バチツとうなされて目が覚めた。「大丈夫か、清優くん？」バイザーを半分上にあげて少年清優の顔を覗く。

「あ、はくっハ、、イ」すぐに落ち着きを取り戻すと唯一動かせる頭を左右に向け辺りを見回す。

「辛いなら、改良辞める？」さっきのバイザーに白衣の技師が問う。「ううん、ちよつと悲しい夢見ただけ続けてくれ」

バイザーを下ろし技師は清優の身体に機械を入れて行く。

身体のパーツを一個一個丁寧に診て外す取り替える。その様子を天井鏡から平然と見ている清優。（人間・機械体・機械人形・動物の境界は何処にあるのだろう。感情表情かな）難しいや）考えを巡らせてると頭を触られる。

「？」

「ご飯栄養剤何色が良い？」医師とは別に金短髪の人が顔を覗かせて聞いてくる。

「カイさん、えつと明るい緑かな。野菜ばいから」そう言う口に機械を嵌めてゆっくり半生な液を流す。

（まずくも旨くもない）ゴクゴクッ飲み混む。

「結構入るねえ、まだ飲む？」

「いろはない、ゴクン。腹にふう溜まった」これいつも何入ってるんですか？」口の機械が外されてタオルで拭かれながら聞く。

「ビタミン栄養素と銀とミョウバンとか後は安定剤脳と身体が拒絶反応出ないように。」

（この人も機械技術医師なんだ）

Prologue (後書き)

難しいけど話数場面ばらばらで書いていきます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5765r/>

機械刑事

2011年10月5日23時42分発行